

科目名	社会調査の基礎（社会福祉士必修）				
授業形態	講義	学年	2		
開講時期	2023年度 前期	単位数	2		
担当教員	有村 大士				
内容および計画	<p>社会福祉領域における社会調査について、ソーシャルワークのグローバル定義をもとに、価値に基づいた調査の設計、および実施について学ぶ。</p> <p>受講生の問題意識などを反映し、授業内で受講生と教員が共同しながら質問やアンケート票を作成し、具体的なプロセスを踏まえながら量的調査、質的調査を理解する。</p> <p>量的調査、質的調査の各技法の特徴と利点を理解し、最適な方法がイメージできるよう、実践しながら学ぶ。</p>				
1	オリエンテーション				
2	<p>ソーシャルワークにおける社会調査とは</p> <p>：ソーシャルワークのグローバル定義から読む役割と知、価値について考える</p>				
3	<p>ソーシャルワークにおける調査と倫理</p> <p>：グリーンブック、社会福祉士の倫理綱領、ソーシャルワークのグローバル定義から考える</p>				
4	<p>ITの活用（アナログ&amp;コンピューター&amp;スマートフォン）</p> <p>：文献検索、文献収集、分析と統計ソフト</p>				
5	<p>質的調査の方法</p> <p>：フォーカスグループインタビューの紹介とデモンストレーション</p>				
6	フォーカスグループインタビューの実施				
7	質的調査の分析法				
8	質的調査の分析とプレゼンテーション				
9	量的調査の基本と分析方法①：表計算ソフトの基本操作と確認と分布、サンプリング				
10	量的調査の基本と分析方法②：相関と回帰、平均値の比較				
11	量的調査の基本と分析方法③：分散分析、検定				
12	調査票、調査項目の作成				
13	調査 ※可能であればフィールドワーク				
14	アンケート票の分析				
15	まとめ				
教科書					
	タイトル	著者名	出版社	ISBN	発行年
	社会福祉調査の基礎	社会福祉士養成講座 編集委員会	中央法規	9784805882351	2021
授業中に適宜配布する。					
	参考書	授業内で適宜紹介する。			
成績評価					
	評価方法				割合(%)
	受講に対する積極性				20
	社会福祉領域における調査に必要な価値・倫理の理解度				30
	演習への積極的な参加				20
	プレゼンテーションの実施				30

<p>数字や横文字に抵抗を感じる学生が多いことも予想されるが、可能な限り授業内で質問するようにし、理解度を上げてもらいたい。根拠ある実践、ソーシャルアクション、実践現場の改善、福祉政策の実施等には、効果的にデータを収集し、活用することが必要である。授業内で結果を示す有意義な体験を得てほしい。</p>	
学習到達目標	<p>社会福祉領域における、価値に基づいた社会調査について理解する。 量的調査、質的調査の特徴と基本について理解し、テーマや対象に応じた適切な分析方法を選択し、実施することができる。</p>
先修条件	
実務経験	
その他	<p>演習を多く取り入れて授業を展開する。積極的な参加を求めたい。</p>